

※第3章 教授法の歴史 について

授業では、年代の順序ではなく、各教授法の内容の関連性を重視してお話しています。そのため、目次も授業で扱う順に、各教授法が並んでいます。
これまでの受講生の方々からの要望を受け、年代順に並べたので、参考にしてください。

第3章 教授法の歴史 年代順

1) 文法訳読法／文法翻訳法／GTM, Grammar-Translation Method

※16c 頃～19c 中頃

2) 直接法 ※19c

▼ナチュラルメソッド

▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド (by グアン)

▼ベルリッツメソッド (by ベルリッツ)

▼フォネティック・メソッド

▼オーラル・メソッド (by パーマー)

▼GDM, Graded Direct Method (by リチャーズ・ギブソン)

3) アーミーメソッド／ASTP, Army Specialized Training Program

※1939-1945

4) オーディオリンガル・メソッド／AL 法／オーディオリンガル・アプローチ／ オーラル・オーラル・アプローチ, Aural-Oral Approach (by フリーズ)

※1950 年代

7) VT 法／ベルボ・トナル法 (by グベリナ) ※1954 年

5) コグニティブアプローチ／認知学習法 ※1960 年代

6) 人間主義的(ヒューマニスティック)な教授法 ※1960~70 年代

▼サイレント・ウェイ (by ガッテーニョ)

▼コミュニティ・ランゲージ・ラーニング／CLL, Community Language Learning (by カラン)

▼TPR, Total Physical Response／全身反応法 (by アッシャー)

▼サジェストペディア (by ロザノフ)

8) SAPL (サプル), Self Access Pair Learning (by ファーガソン)

※1970 年代

9) コミュニカティブ・アプローチ／CA, Communicative Approach／
CLT, Communicative Language Teaching ※1970 年代

14) ナチュラル・アプローチ (by テレル・クラッシュェン) ※1980 年代

▼モニターモデル (クラッシュェンの第二言語習得に関する 5 つの仮説)

11) 内容重視の教授法／CBI, Content-Based Instruction

※1980 年代

10) タスク中心の教授法 / TBLT, Task-based Language Teaching
(by ロング) ※1990 年代

▼フォーカス・オン・フォーム, Focus on Form

▼フォーカス・オン・フォームズ, Focus on Forms

▼フォーカス・オン・ミーニング, Focus on Meaning

12) CLIL (クリル), Content and Language Integrated Learning／
内容言語統合型学習 ※1990 年代

13) 協働学習 (ピア・ラーニング) ※近年